

S	M	T	W	T	F	S
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

見てみよう！歴史地震記録と旬のあいち < 9月 >

かわちやしんでん 河内屋新田

所在地：小牧市大字河内屋新田

交通：名鉄小牧線「味岡」駅 西約3km

東春日井郡河内屋新田村（現在の小牧市大字河内屋新田）の新田頭・舟橋仁左衛門家に、安政東海地震の際の様子を記した書付が残されています。

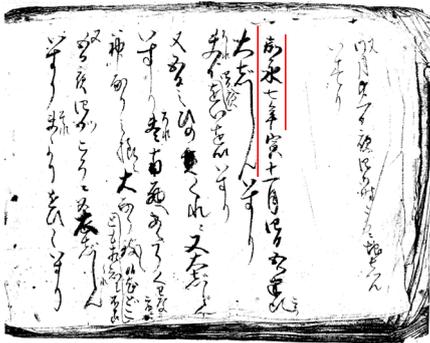
この書付は、弘化4（1847）年頃から嘉永年間（1848～1854）の日記と思われる『年々覚』と呼ばれるもので、「嘉永七年寅十一月四日五ツ半此大じしんいすり（いすり＝揺する）夫より四日之夜をいをい（おいおい）いすり 又五日之ひのくれ二又大じしんいすり 夫々南西あたりくわな方二神なり之様二大なり致候 尤どことも相知レ申さず候 又五日夜四ッころニ 又大じしんいすり 夫よりをひをひいすり」と記されており、嘉永7（1854）年11月4日5ツ半（午前8時から9時頃）に地震が発生し大きく揺

れ（安政東海地震）、翌5日夕刻にも地震が発生し（安政南海地震）、その後も継続的に余震があったことが読み取れる内容となっています。また「嘉永七年寅六月十四日夜地しんいすり 大じしん二て五

へん程いすり 其間二もいすり 夜之八ツ時ころより あさひのでごろ迄いすり」との記述もあり、同年6月14日の伊賀上野地震の前後にも当地で大きな揺れが発生し、余震が繰り返して発生していたことがわかります。

右下の写真は現在の河内屋新田周辺のもので、このあたりは小牧段丘の下段に位置する地盤の軟弱な場所で、地震により揺れやすい場所であったと考えられます。「新田」という地名からも、地震による揺れが大きくなりやすい場所であるということがうかがえ、書付の記録はそのことを裏付けるものとなっています。

小牧における安政東海地震の様子は、岩崎村の庄屋・兼松家の所持していた古文書にも記録されています。この古文書には、嘉永7年11月4日、翌5日の2回の大地震と、それに続く余震の状況、地震や津波による被害について、大坂、伊勢山田、桑名、三州岡崎、藤川宿、掛川宿などの様子が記載されており、江戸から西国に至る広範囲にわたる被害状況が報告されています。文書の発信元は岡崎宿の福島屋弥兵衛という人ですが、どのような経路で各地の被害の情報が伝わり、地方の一庄屋までが大地震の情報を知ることができたのか、興味深い記録です。



舟橋仁左衛門家の書付
(赤線部分：嘉永七年 大じしん)



河内屋新田周辺



◆ 地震にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、地震が実際にこの地域で起こるということを実感していたたくとともに、そうした先人たちの声を耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。



◆河内屋新田の周辺には…

●八幡社

所在地：春日井市東野町

交通：JR中央線「神領」駅西約2.5km

春日井市東野町にある八幡社の鳥居には、明治24（1891）年濃尾地震による北海道団体移住関係者9名の名前が刻まれています。建立は大正8年で、移住後30年ほどが経過してから、生活が軌道に乗ったのを機に、記念に鳥居を寄進したのではないかと考えられます。



●はさみいけ 鋏池

所在地：春日井市大泉寺町

交通：JR中央線「神領」駅北約2.5km



鋏池には改修記念碑や水神碑など、多数の碑が建立されています。この碑には、濃尾地震によって、大泉寺新田の池が崩れたこと、地方税と国庫金の補助を受けて修復したことが記されています。



◆詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をご覧ください。

★小牧山お月見まつり

小牧市のシンボル小牧山は、織田信長が小牧山城を築城し、「小牧長久手の戦い」では家康勢が陣を張った場所です。小牧山お月見まつりは、平成9年、小牧山公開70周年を記念し始まり、毎年9月に開催されます。



小牧山会場では、名古屋コーチンを使った月見汁の無料提供や月見茶会、天体望遠鏡を使って月を見る観月会などが開催されるほか、幽玄な世界が多くの観客を魅了し、小牧市を代表するイベントのひとつとなっている「小牧山薪能^{たきぎのう}」が同時開催されます。また、駅前にはサテライト会場が設けられ、この薪能をスクリーンを使ってライブ中継し、つきたてのお餅の無料配布や屋台の出店もあります。

9月のあいちの花

平成26年9月のあいちの花は黄輪ギクです。キクは秋に花咲く短日植物ですが、電照やシェードなどを用いて、周年供給されています。



輪ギクは、スプレーギク、小ギクとともに日本を代表するキクの一つで、愛知県での黄輪ギクの主要産地は、豊川市、田原市、阿久比町です。

●ブレイクタイム●

♪名古屋コーチン

旧尾張藩士の海部兄弟により開発された日本3大地鶏の一つ名古屋コーチンは、尾張の地鶏と中国（清）の地鶏のバフコーチンとの交配により作出された鶏で、小牧が発祥の地です。近代養鶏史における国産実用品種第一号にも認定されています。名古屋コーチンは卵をよく産み、肉もおいしいことから「卵肉兼用種」に分類されており、弾力に富みコクのある旨味の肉と、濃厚でコクのある味わいの卵が楽しめます。

名古屋コーチン協会から、名古屋コーチンのおいしさを楽しむための取扱説明書『とりせつ』が発行されています。ホームページよりご覧ください。



名古屋コーチン協会ホームページより
<http://www.nagoya-cochin.jp/>

◆この地域の地震・津波に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をぜひご覧ください。

（発行：減齋の会（仮称）・名古屋大学減災連携研究センター 平成26年9月）

